



大手町いまながクリニック

院長 今永 知俊 先生

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医  
北九州市小倉北区大手町 13-34  
ハローパーク大手町 2F  
093-562-2580

## 肺がん

### 肺がんとは

肺がんは、肺の気管や気管支、肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したもので、肺から発生したがんの総称です。症状が出にくいいため、他の臓器のがんと比べて早期に発見することが難しい病気です。進行するにつれて周りの組織を破壊しながら増殖し、血液やリンパの流れに乗って広がるため、進行が早く、転移もしやすいという特徴があります。

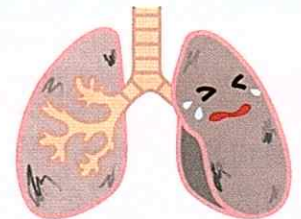
日本人が生涯のうちにがんにかかるのは2人に1人とされていますが、がんによる死亡原因をみると、肺がんは男性で第1位、女性では第2位となっており、死亡数、罹患数ともに年々増加しています。

女性の肺がんの増加が日本人全体の肺がん死亡者数増加の大きな要因となっています。

### がん死亡数の順位(2021年)

人口動態統計がん死亡データより

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
全体	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓



### 原因

#### ■ 喫煙

肺がんの最大の原因は喫煙と考えられています。たばこを吸う人は、たばこを吸わない人に比べて、男性で4.4～4.5倍、女性で2.8～4.2倍、肺がんになりやすく、たばこを吸い始めた年齢が若いほど、吸う本数が多いほど肺がんになりやすいといわれています。また、非喫煙者でも、受動喫煙で肺がんリスクが高まることがわかっています。しかも、主流煙よりも副流煙の方に有害物質が多く含まれていますので、非喫煙者でも、身近な人がたばこを吸っている場合には煙を避けることが大切です。



#### ■ 家族歴

肺がんの家族歴がある人は、ない人に比べて肺がんになるリスクが2倍ほど高く、肺がんになりやすい傾向があることがわかっています。性別で比べると男性よりも女性のほうがこの傾向が高まります。

#### ■ 女性ホルモン

女性ホルモンが肺がんに関係することが指摘されています。国立がん研究センターは2022年、女性の非喫煙者の肺がんは、女性ホルモンのエストロゲンが関係している可能性があるという研究結果を発表しました。閉経が早い女性に比べて、遅い女性の方が肺腺がんのリスクが1.41倍高く、初潮から閉経までの期間が短い女性と比べて、長い女性の方が肺腺がんのリスクが1.48倍高いという結果でした。



#### ■ その他

ディーゼル排ガス、石綿(アスベスト)、職業性のクロム化合物など